

バクトリア王アガトクレスの二言語併用貨幣

吉池孝一

1. はじめに

小稿の主目的は、紀元前2世紀インド西北のバクトリア王の一人、アガトクレスの名が打刻された貨幣の紹介にある。この種の貨幣は、既刊資料に掲載された写真によっても見ることにはできるが完全な銘文を持つものは少ないようである。今回紹介する貨幣は、完全とは言えないまでも銘文は比較的によく保たれており参照用の資料として有用であろう。ここに紹介することとした所以である。資料の紹介は「3. アガトクレスの二言語併用貨幣」で行うが、その前に「2. 初期の二言語併用貨幣」において当該貨幣の背景につき、参考までに一つの説によって確認する。最後の「4. 三つの問題」では二言語併用貨幣をめぐる幾つかの問題につき思うところを述べる。

2. 初期の二言語併用貨幣

バクトリア王国のギリシア人諸王のうちデメトリオス1世(在位 200-185 B.C.)はヒンドゥークシュ山脈を越えてインドの西北に進出したとされるが、たしかにこれ以降の諸王の貨幣とヒンドゥークシュ山脈以北にとどまっていたころの諸王の貨幣とは異なる面がある。銘文についていえば、ギリシア文字で記されたギリシア語であったものが、ヒンドゥークシュ山脈以南のインド西北に進出した後は、表にギリシア文字で記されたギリシア語、裏にカローシュティー文字やブラーフミー文字で記されたインドの言語というように、表裏に異なる文字と言語が記された貨幣、すなわち二言語併用貨幣が現れる。初期の二言語併用貨幣にどのようなものがあるか、それを文献によって確認し文字種を示すと次のようになる<sup>1</sup>。なお、バクトリア諸王の系譜と在位年は前田 1992 による<sup>2</sup>。

デメトリオス1世(200-185)	┌	デメトリオス2世(180-165)	ギリシア文字とカローシュティー文字
		アガトクレス(180-165)	ギリシア文字とブラーフミー文字
		パンタレオン(185-175)	ギリシア文字とブラーフミー文字
		.....エウクラティデス(171-155)	ギリシア文字とカローシュティー文字

前田 1992 によるとデメトリオス1世の息子には、デメトリオス2世、アガトクレス、パンタレオンの三人がいたという。そして、それぞれの王名の二言語併用貨幣が発行されている。デメトリオスとあるものはギリシア文字とカローシュティー文字によるものであり、これは1世のものではなく、その息子の2世のものであるという<sup>3</sup>。アガトクレス、パンタレオンとするものにはギリシア文字とブラーフミー文字によるものがある<sup>4</sup>。これにやや

<sup>1</sup> 渡邊 1973、Mitchiner 1975、田辺 1992、前田 1992、グプタ 2001 による。

<sup>2</sup> 前田 1992。146 頁参照。

<sup>3</sup> “これらのコインはいずれもデメトリオスⅡ世のものと考えられる。そしてこの二言語併用には特別な意味があったと思われる。それはカローシュティー語文化圏とデメトリオスⅡ世との深いかかわりを示すものにほかならない。デメトリオスがインダス河流域の経営に力をふるったからなのかもしれない。” (161 頁)

<sup>4</sup> この点はグプタ 2001(もと 1969)の 24 頁に指摘がある。貨幣の見本は、アガトクレスについて

遅れて、デメトリオス 2 世に反旗を翻してバクトリアの王位についたとされるエウクラテ  
イデスは、ギリシア文字とカローシュティー文字による二言語併用貨幣を発行した。今回  
は古代文字資料館(愛知県立大学 E511 室内)が管理するアガトクレスの二言語併用貨幣を紹  
介する。

### 3. アガトクレスの二言語併用貨幣

次の写真はアガトクレス(在位 180-165 B.C.)の銅貨である。貨幣の両面を金型で挟み込  
んで打刻した点はギリシア貨幣の様式によるものであるが、方形であるところはインド貨  
幣の特徴といえよう。縦 25.78mm、横 22.93mm、厚さ 3.9mm、重さ 12.2g。これと同種の貨  
幣は Mitchiner1975 の 81 頁に 6 種掲載されており、その記述によると表は右向きのライオ  
ンであり、裏は右手に花を持ち左向きに歩く女神の像であるという。



表



裏

この貨幣の銘文は完全ではないが Mitchiner1975 を参照して摩滅部分を【】で示す。先  
ず表の銘文をみると下のようである。



b a s i l e o s



【a】 【g】 a t h o k l e o u s

表のライオンの上方と下方はギリシア文字・ギリシア語の銘文となっている。上は左か

---

は Mitchiner1975 の 81 頁、パンタレオンについてはグプタ 2001 の 217 頁 No. 36 および  
Mitchiner1975 の 84 頁参照。

ら右に Β Α Σ Ι Λ Ε Ω Σ (basileōs 王の)、下は左から右に 【Α Γ】 Α Θ Ο Κ Λ Ε Ο Υ Σ (agathokleous アガトクレスの)とある。次いで裏の銘文をみると下のようである。



a ga thu kla ya 【sa】  
裏の左(下は撮影角度を変えたもの)

ra ja 【ne】  
裏の右(下は撮影角度を変えたもの)

裏の女神の右側と左側はブラーフミー文字・印度語の銘文となっている。なおここで言う「印度語」は便宜的な呼称としてプラークリット諸語、サンスクリット、混淆サンスクリットを広く指すものとする。さてブラーフミー文字であるが、女神像に向かって右側に、上から下に三文字配されている。これを90度左に倒して左から右に ra-ja-【ne】(王の)と読む。女神像に向かって左側に、上から下に六文字配されている。これを90度左に倒して左から右に a-ga-thu-kla-ya-【sa】(アガトクレスの)と読む。両面を同一銘文“王アガトクレスの”とした二言語併用貨幣である。

なお、ブラーフミー文字・印度語の rajane の ne や agathuklayasa の . . yasa/asa/sa の機能については、対応するギリシア語銘文に basileōs(王の)・agathokleous(アガトクレスの)とあること、およびここでは紹介をしていない貨幣であるがほぼ同時代のエウクラティデスの貨幣銘文にカローシュティー文字・ガンダーラ語で maharajasa(大王の。sa 属格語尾)・evukratitasa(エウクラティデスの。sa 属格語尾)とあることからみて<sup>5</sup>、それぞれを属格として大過ないのであろう。しかしながら、ブラーフミー文字銘文の ne や . . yasa/asa/sa の音形の由来については不明にして專家の教えを請うしかない。

#### 4. 三つの問題

今回紹介したインド西北の二言語併用貨幣をめぐる問題となる事項が三つある。一つ目、伝統的な貨幣様式からみると破格とも言える二言語併用貨幣がこの地で出現したのはなぜか<sup>6</sup>。二つ目、初期の二言語併用貨幣にギリシア文字/カローシュティー文字とギリシア文字/ブラーフミー文字の二種の銘文が併存するのはなぜか。三つ目、前項二種のうちどちらが先に発行されたか。以上三つであるが、これにつき次のようなことであろうと想像している。なおこの想像は、貨幣を紹介するという小稿の主旨からすると蛇足であるが、今後

<sup>5</sup> 中村 2004 参照。

<sup>6</sup> 二言語併用貨幣がいつ発行されたかということについては、地中海東側沿岸の貨幣銘文を検討する必要があるが、まとまった銘文をもつものとしては、印度西北における二言語併用貨幣が最も早い時期のものと考えている。このことについては吉池 2010 で触れたことがある。

の課題を確認する意味を込めたつもりである。

一、インド西北の地で二言語併用貨幣が出現したのはなぜか。ガンダーラの西南方に位置するカンダハルから 1958 年、アショカ王碑文が発見された。アラム文字・アラム語とギリシア文字・ギリシア語を併記した法勅である。これはバクトリア王国の創始者であるディオドトス 1 世(在位 256-248 B.C.)の頃のものという<sup>7</sup>。この地方に二言語を併記した碑文が建立されていたことは、二言語併用貨幣の出現を容易にしたであろう。あるいは、二言語併用貨幣の発行には、カンダハルに建立されたような二言語併用のアショカ王碑文を模すという政治的意図が含まれていたのかもしれない。

二、二種の銘文が併存するのはなぜか。グプタ 2001(もと 1969)に“彼らはバクトリア領では一言語の貨幣を発行し、カローシュティー文字が使われているインド領では二言語の貨幣を発行したとみられている。”とあるように、領有地により銘文の種類を変えたとする事は十分に考えられる。そのような観点からすると、アガトクレスとパンタレオンがカローシュティー文字ではなくブラーフミー文字を利用したのも、両者の領有地と何らかの関係があると見てよいのかもしれない。アガトクレスとパンタレオンはカローシュティー文字が行われていた地域の周辺を主な領有地としていたということである。

三、どちらの二言語併用貨幣が先に発行されたか。紀元前 2 世紀インド西北の二言語併用貨幣の出現以来この新たな貨幣様式は後代に伝えられ周辺域に伝播した。したがって何れの貨幣が先であるかということは小さな問題ではない。しかしながらこれは史家の説によるしかない。デメトリオス 2 世(180-165)とアガトクレス(180-165)とパンタレオン(185-175)を兄弟とする説によるならば<sup>8</sup>、同時代人ということになるわけであり、どちらの二言語併用貨幣が先に使用されたかということを知るのは困難となる。もっとも、管見によるかぎりバクトリアの諸王のなかでブラーフミー文字を利用したのはアガトクレスとパンタレオンだけのようであり残存数も少ない。それ以外の二言語併用貨幣はギリシア文字とカローシュティー文字によるものであり、後代と周辺の貨幣様式に与えた影響という点では、後者すなわちギリシア文字とカローシュティー文字銘文による二言語併用貨幣の方が大きかったということくらいは言えそうである。

#### 【参考文献(発行年順)】

渡邊弘 1973. 『西域の古代貨幣』 学習研究社。

Michael Mitchiner 1975. *INDO-GREEK AND INDO-SCYTHIAN COINAGE Volume I*. Hawkins Publications: London.

田辺勝美編 1992. 『[平山コレクション]シルクロードのコイン』 講談社。

前田耕作 1992. 『バクトリア王国の興亡』 (レガリス文庫), 第三文明社。

P. L. グプタ著/山崎元一他訳 2001. 『インド貨幣史 — 古代から現代まで』 刀水書房。

中村雅之 2004. 「カローシュティー文字貨幣 3 種」『KOTONOHA』(古代文字資料館) 22 号, 1-3 頁。

吉池孝一 2010. 「シルクロードの文字をたどる — 西安からソグディアナを経てインド西北に到る—」『ことばの世界』(愛知県立大学高等言語教育研究所) 第 2 号, 109-116 頁。

<sup>7</sup> 前田 1992 の「十二 両世界の王」(172-211 頁) 参照。

<sup>8</sup> 前田 1992 による。